

(一般社団法人)



日本画像学会

2014年度表彰

功労賞 ● 阿部隆夫、緒方信康、伊藤 昇
論文賞 ● 坪井彩子、中村一希、小林範久
研究奨励賞 ● 飯野裕明、安藤正登、楠見嵩史
会長特賞 ● 北岡義隆

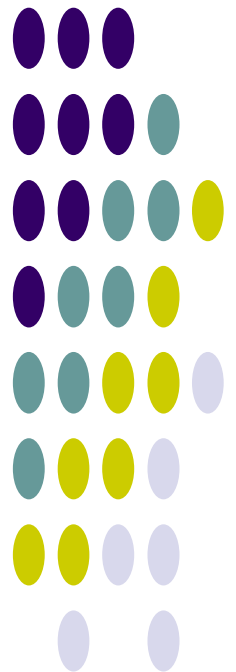
フェロー ● 半那純一、小林範久、長山智男

技術賞 ● 富士フイルム(株) / 辰巳節次、中澤雄祐、井上義章、
柳 輝一、山野辺淳

技術賞 ● 綜研化学(株) / 滝沢容一、大日本印刷(株) / 小林弘典

技術賞 ● 富士ゼロックス(株) / 新井和彦、中山信行、小笠原正、
織田康弘、勅使川原亨

日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞 ● 並木則和



2015年6月17日(水)

学術総合センター

一橋大学 一橋講堂

☆功労賞(第21回) 3件

阿部隆夫(あべ たかお)(信州大学)



受賞理由：長年にわたる学会運営への多大なる貢献

2003年以来、日本画像学会において理事を12年務められ、長期にわたり学会の運営に尽力した。その間、特にコンファレンス委員長として10年間年次大会の開催、運営に指導的な立場で多大なる貢献をした。その他 NIP関連統括、画像技術用語委員、選奨委員、ビジョン委員を歴任した。さらに、熱転写、インクジェット記録等のイメージング材料工学分野において、年次大会での多数の発表、学会誌への論文掲載、技術研究会の講演を通じて、学会の進歩発展に多大な貢献をした。

緒方信康(おがた のぶやす)(画像学会事務局)



受賞理由：長年にわたる学会運営への多大なる貢献

長年にわたる学会活動および、2008年から7年間、事務局長としてPPIC08開催、50周年記念事業、一般社団法人化、画像連合会発足などの学会事務局運営を通じて学会へ多大な貢献をした。

伊藤 昇(いとう のぼる)(元 コニカミノルタ株式会社)



受賞理由：長年にわたる学会運営への多大なる貢献

長年にわたり関西委員会で御活躍され、関西シンポジウム、ICJFall大会において運営全般に御尽力され、学会活動の活性化に多大な貢献した。

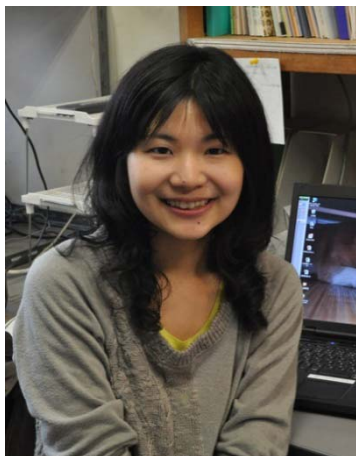
☆論文賞(第29回) 1件

「電極形状が銀析出型EC素子の鏡面化特性に与える影響」

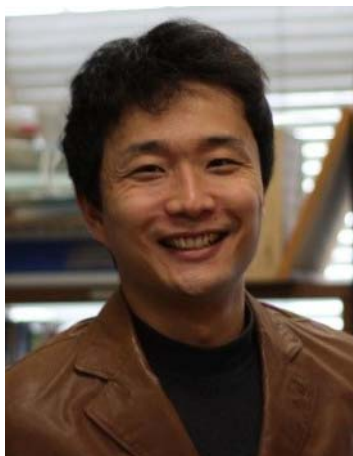
日本画像学会誌 第53巻 第4号 pp 265 - 271 (2014)

坪井彩子(つぼい あやこ)、中村一希(なかむら かずき)、小林範久(こばやし のりひさ) (千葉大学)

受賞理由：電気化学的に可逆な色調変化を発現するエレクトロクロミズムは、電子ペーパー、デジタルサイネージ等の省電力な表示・調光デバイスへの応用が期待されている。本研究では、電極上への銀の還元析出に基づいて色調が変化するエレクトロクロミック素子に関し、電極の表面形状が素子の光学特性に与える影響について評価を行い、平滑な電極では鏡状態を、ITO粒子によって被覆した電極では黒状態を発現することを見出し、電極形状により鏡面化特性が任意に制御可能であることを示した。従来には無い色調の表現可能なデバイスへの展開が期待され、さらに、表示素子として鍵となる黒色発現の機構に関するITO粒子修飾電極形状と析出銀形状の詳細な解析は、今後の表示素子への応用展開へ向け重要な知見と成り得ることから、論文賞に相応しいものと評価した。



坪井彩子



中村一希



小林範久

☆研究奨励賞(第22回) 3件

移動度 $10\text{cm}^2/\text{Vs}$ を超す多結晶有機トランジスタ材料の開発 飯野裕明(いの ひろあき) (東京工業大学)



受賞理由: 著者らは、液晶性有機半導体である Ph-BTBT-10 の多結晶薄膜における熱アニールによる高移動度化の要因を探るべく、アニール前後におけるグレインサイズやコンタクト抵抗の大きさ、X線による構造評価を行い、熱アニールを施すことで結晶構造が1分子長に対応したモノレイヤー構造から、熱アニール後は2分子長に対応したバイレイヤー構造に変化していることを見出している。そのバイレイヤー構造は、単結晶の構造と同一で、コア部が向き合った Head-to-Head のバイレイヤー構造を取り、これによって移動度が増加したものと結論づけ、同様にバイレイヤー構造を取ることができる Ph-BTBT-14 において、 $18.9\text{ cm}^2/\text{Vs}$ という非常に高い移動度を示すFETの作製に成功している。液晶性有機半導体材料の可能性を高め、今後のさらなる展開が期待できる研究成果である。

定着ニップ通過後の用紙カール量予測シミュレーション技術の構築 安藤正登(あんどう まさと) (富士ゼロックス株式会社)



受賞理由: 電子写真式印刷機内の定着ニップにおけるカールを汎用的に精度よく予測することは、初期段階での十分な設計的配慮の下、装置の性能向上への寄与が期待できる。著者らは、用紙の減率乾燥特性を考慮した繊維の吸脱湿モデルと空隙内の蒸気移動モデルを組み合わせた用紙の含水率分布予測モデルを考案し、さらに、ニップ内で用紙が受ける曲率の履歴と高温高湿の用紙物性を考慮した力学モデルと連成することでニップ通過後の残留変形量を高い精度で計算可能とした。本モデルの有効性は、複数種類の定着器で発生するカールを複数の環境、用紙種類条件下で検証され、汎用性の高いシミュレーション技術であると認められる。

電解生成 dendrite 様銅ナノワイヤーをフィラーとする透明導電フィルムの形成 楠見嵩史(くすみ たかし) (千葉大学)



受賞理由: ITO代替材料として銅ナノワイヤーを、新規電気化学的合成方法によって、自己組織的に形成されることを見出している。更に、銅ナノワイヤーを透明絶縁性ポリマー溶液に分散塗布することで、透明性と導電性を併せ持つ導電膜の形成に成功し、銅ナノワイヤーの分散量と透明度、電気伝導度の関係を明らかにした成果は優秀であると評価できる。これからの印刷エレクトロニクスへの発展への寄与が期待できる。

☆会長特賞(第15回) 1件

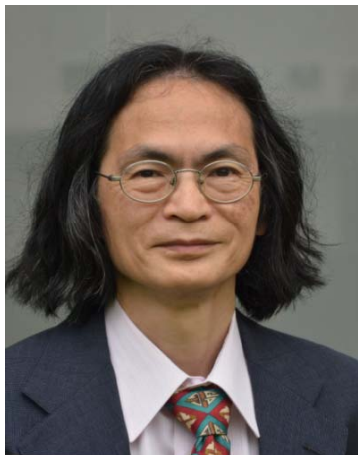
北岡義隆(きたおか よしたか) (パナソニック株式会社)



受賞理由：2010年から関西委員長として活躍され、2014年秋の第1回画像連合会秋季合同大会の開催に多大なる貢献をした。

☆フェロー(第2回) 3件

半那純一(はんな じゅんいち) (東京工業大学)



受賞理由：長年にわたり画像関連材料研究に関わり、画像技術の発展に大きく寄与した。また、2012年からは当学会の会長に就任し、画像関連学会連合会の議長も務めている。

小林範久(こばやし のりひさ) (千葉大学)



受賞理由：電気化学的手法による表示素子、発光素子の研究を初めとして、多くの画像表示技術に関連する研究を進めており、2010年には日本画像学会コニカミノルタ研究奨励賞を授与される等、画像技術の発展に大きく寄与している。当学会理事も務めている。

長山智男(ながやま のりお) (株式会社リコー)



受賞理由：千葉大学、大阪大学において有機半導体の研究を進め、株式会社リコーに入社後も有機感光体技術の発展に寄与している。関連の研究発表も多数あり、当学会研究奨励賞を三回受賞している。当学会理事、編集委員なども務めている。

☆技術賞(第25回) 3件

技術：『インクジェットデジタル印刷機JetPress720シリーズの開発』

富士フイルム株式会社

辰巳節次(たつみ せつじ)、中澤雄祐(なかざわ ゆうすけ)、井上義章(いのうえ よしあき)、柳 輝一(やなぎ てるかず)、山野辺淳(やまのべ じゅん)

受賞理由：B2サイズの汎用コート紙に高画質で印字可能な高速インクジェット印刷機として始めて実用化されたシステムである。

- ・ Si-MEMSプロセスとsuptter-PZTと用いたインク循環機能を有する高信頼高密度IJヘッド技術
 - ・ Webと洗浄液を組み合わせた広幅ヘッドクリーニング技術
 - ・ 水系Latex顔料インクとプレコンディショニング液を組み合わせてドット品質/膜物性/低カールを獲得した材料技術とマーキングプロセス技術
 - ・ シングルパスによるスジムラに耐性のあるハーフトーンと補正を行う画像処理技術
 - ・ 吸着ドラムによる高精度の用紙搬送技術
- などの技術においてブレークスルーが認められる。

「オフセット印刷物に混ぜることが出来るデジタルプリント」との評価があり、汎用コート紙でオフセット印刷画質を獲得した点で社会的反響が大きい。また、脱墨性能にも優れ、評価機関INDEGEから“Good Deinkable”を獲得している。



辰巳節次



中澤雄祐



井上義章



柳 輝一



山野辺淳

技術：『ツイストボール型電子ペーパーの商品化』

綜研化学株式会社、大日本印刷株式会社

滝沢容一(たきざわ よういち)(綜研化学株式会社)、小林弘典(こばやし ひろのり)(大日本印刷株式会社)

受賞理由：ツイストボール表示方式自体は米国ゼロックスの発明であるが着色粒子のマイクロチャンネル製造方法及びそれに用いるマイクロチャンネル式製造装置は受賞候補者の発明によるオリジナル技術であり、ツイストボール表示方式の実用化と商品化に世界で初めてこぎ着けたキー技術として注目と賞賛に値する。

現時点での反響は地味であると思われるが、電子ペーパーを大画面に適用し、太陽光の直下でも見やすく省資源の大型表示パネルの実現を達成したことによる応用範囲は広いため、今後次第に大きな反響を呼ぶことになると期待される。



滝沢容一



小林弘典

技術：『高信頼ロングライフゼログラフィドラムユニットの開発』

富士ゼロックス株式会社

新井和彦(あらい かずひこ)、中山信行(なかやま のぶゆき)、小笠原正(おがさわら まさし)、織田康弘(おだ やすひろ)、勅使川原亨(てしがわら とおる)

受賞理由：本技術では、新規に開発した解析技術を駆使し、クリーニング部におけるトナー/外添剤挙動と摩耗の関係を初めて定量的かつ動的に明らかにした。その成果を、2層ブレードなどの特徴的な部材を採用して体系的に最適化したゼログラフィドラムユニットとして商品化し、ライフのトレンドを大きく変える長寿命化を達成した。クリーニング解析技術により、合理的な開発プロセスへ変革させて高い長寿命性能を実現した点が高く評価でき、また、地球温暖化防止の実現を目指して取り組んだ結果として、低炭素化などの点で社会への貢献も大きい。



新井和彦



中山信行



小笠原正



織田康弘



勅使川原亨

☆日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞
(第10回) 1件

並木則和(なみき のりかず)(工学院大学)

研究題目:オフィス機器からの超微粒子発生量評価



受賞理由:「室内空間における二次有機ナノエアロゾルの生成・挙動とその制御」等の、超微粒子生成機構解析・発生量評価・捕集技術開発などを研究されており、主に「日本空気清浄協会」「日本エアロゾル学会」「化学工学会」において活発な活動をされている。2000年より開始した研究テーマ「オフィス機器からの超微粒子発生量評価」は、今後さらに厳しくなるVOC/UFP(揮発性有機化合物/超微粒子)排出規制に対して、各プリンターメーカーが積極的に取り組んでいる排出量削減技術の開発に、不可欠な研究である。

受賞者リスト

学会賞

1993 井上英一
菊池真一
1994 三川 禮
1995 小門 宏
坂田俊文
1996 河村孝夫
1997 木原信敏
1998 本庄 知
1999 栗田隆治
2000 遠藤一朗
2001 高橋恭介
2002 横山正明
2003 碓井 稔
平倉浩治
2004 村山徹郎
2005 水口 仁
2006 竹内 学
2007 細矢雅弘
2008 半那純一
2009 星野勝義
2010 北村孝司
2012 川本広行
2013 面谷 信

功労賞

1993 木脇久智
近藤厚實
1994 窪田啓次郎
坂巻資敏
松井 茂
1995 今村舜仁
中村堅一
1996 柿井俊一郎
江田研一
1997 野田栄三
山本 隆
1998 昼間健治
山口隆司
1999 高島祐二
土屋元彦
2000 田嶋紀雄
2001 情野國城
2002 本庄 知
滝口孝一
2003 小口寿彦
2004 大野 信
北村孝司
木村正利
2005 横山正明
鈴木 明
2006 鈴木弘治
高橋 通
星野坦之
2007 中山喜萬
深瀬康司
2008 水口 仁
竹内 学
中村俊治
2009 五十嵐 明
正道寺 勉
富樫光夫
2010 平倉浩治
岡 建樹
2012 山崎 弘
大西 勝
2013 中居仁司

会長特賞

2000 羽根田 哲
2001 情野國城
Min-Kai Tse
2002 安達春夫
2003 平原修三
安達昭三
2004 金 栄順
上原利夫
2005 安藤祐二郎
金 銀慶
2006 稲垣敏彦
緒方信康
2007 武田布千雄
中島淳三
Inan Chen
2008 板谷正彦
2009 木村正利
今井 力
2010 長山智男
2011 長谷部 恵
2012 鶴岡亮一
2013 酒井真理
神野文夫
竹内達夫

研究奨励賞

1984 武田布千雄
1985 梨木恵一
1986 高橋隆一
1987 笠井利博
1988 小田 元
佐々木幸雄
山本 肇
1989 小寺宏暉
柳田和彦
1990 細矢雅弘
松井乃里恵
山口康浩
1991 面谷 信
田中俊春
弘重祐司
1992 上原康博
松井利一
1993 赤木秀行
園田泰子
堀田吉彦
1994 梅田 実
古川和彦
村井和昌
1995 天野哲也
勝目 正
古谷信正
1996 長山智男
平本昌宏
松本卓士
1997 小谷野 武
平川弘幸
山口幸生
1998 中山信行
李 源涉
1999 久保田哲行
趙 国来
福本 宏
2000 原田陽雄
高橋朋子
2001 金澤祥雄
水口由紀子

2002 平林 純
村本秀也
2003 町田義則
長山智男
大石亮太
2004 中嶋道也
紅林良之
真常 泰
2005 春原聖司
藤本慎也
2006 田中俊介
坂本 祥
2007 大野 玲
長山智男
伊藤めぐみ
2008 遠藤 寿
中川靖子
2009 木内豊
井上園美
田中里美
2010 由井悠基
西浦美都子
2011 井辻健明
齋藤和広
渡辺 壮
2012 青野博之
江口弘樹
八田 達
2013 佐竹まどか
田中孝幸
坪井彩子

名譽会員

2001 井上英一
近藤厚実
窪田啓次郎
三川 禮
坂田俊文
2002 小門 宏
今村舜二
2003 河村孝夫
江田研一
2004 高橋恭介
2008 横山正明
2011 田嶋紀雄
高橋 通
2012 平倉浩治
北村孝司
2013 水口 仁
中山喜萬

フェロー

2013 上原利夫
上原康博
面谷 信
川本広行
内藤裕義
西 真一
星野勝義
堀田吉彦

日本画像学会コミュニケーション研究奨励賞

- 2005 山口留美子
- 2006 谷中一寿
- 2007 水口 仁
- 2008 渡邊敏行・平田修造
- 2009 小林範久
- 2010 面谷 信
- 2011 関谷 毅
- 2012 梅津信二郎
- 2013 藪 浩

日本画像学会コミュニケーション研究賞

- 2005 藤本慎也
- 2006 坂本 祥
- 2007 土井孝次
- 2008 遠藤 寿
- 2009 井上 園美
- 2010 浅井敏明
- 2011 井辻健明

論文賞

- 1977 本庄 知、田口誠一
1981 高橋 通、細野長穂、神辺純一郎、豊野 勉
1983 下木原 滋、加藤義明、板倉良介、横山正明、三川 礼、高島祐二、石田英輔、粒崎 繁、弓場上恵一、下間 亘
1985 河村尚登、門脇秀次郎、北島信夫
1987 武田布千雄、坂本康治、小林一雄
1989 寺尾和夫、稲葉 繁、伊藤健介
1991 松井乃里恵、岡 孝造、稲葉義弘
1993 細矢雅弘、齋藤三長、佐々木幸雄、木村正利、中島淳三
1994 池側彰仁、後藤 浩、岩佐英二、江ノ口祐次
1995 岩田尚貴、鈴木弘治、西土和宏、沢田 彰
1996 村井和昌、小勝 斉、喜多伸児
1997 本間寿一、横山正明
1998 保坂靖夫、中尾英之
1999 宮坂 徹、山本雅志、島田 昭
2000 水口 仁、遠藤彩映、松本真哉、平林 純、高橋 通
2001 情野國城、弓削静雄、上村正雄、船山康弘、堀健志、吉井朋幸、上菌勉
2002 渡辺 崇、近内健護、星野坦之
2003 小寺宏暉
2004 水口 仁、今永俊治
2005 真常 泰、八木 均、高橋正樹、石井浩一、高須 勲、細矢雅弘
牧野崇史、井村康朗、日達昭夫、岩田昭平、水口 仁
2006 物部祐亮、山下春生、黒沢俊晴、小寺宏暉
藤山高広、杉本賢一、関口未散
2007 面谷 信、小島 聡
2008 藤本慎也・前田博己・鶴岡美秋・中山健一・横山正明
岡田久雄・竹内 学
2009 情野國城、平原秀明、小沼崇明、吉田一郎、海江田省三
松坂修二、白井聖、細尾康元、安田正俊
2010 西浦美都子
2011 尾崎敬二
2012 瀬尾 学、塚本武雄、法兼義浩
2013 村山雄亮、井手亜里
須原浩之

技術賞

- 1987 キヤノン(株) OPCとジャンピング現象を用いたカートリッジシステム、ミルカマ(株)パインダ型小粒径キャリアを用いた現像システム(マイクロエッチ方式)、(株)リコー 高感度積層型OPC感光体の開発
1991 キヤノン(株)帯電ローラ/転写ローラシステムの開発、富士ゼロックス(株)1stスカラー電子写真プロセス技術、ミルカマ(株)レーザー強度変調画像再現システムの開発
1992 キヤノン(株)ウェイトレス熱定着システムの開発、富士ゼロックス(株)高画質デジタルカラーセレクトラファイバー技術、(株)リコー 4thラムデジタルカラー電子写真システム
1993 日立工機(株)高速レーザービームプリンタ用半導体レーザー光学系の開発、(株)リコー 省スペース高画質デジタルカラー-PPCの開発
1994 富士写真フイルム(株)TA方式フルカラーハードコピーシステムの開発、松下電器(株)感光体内部磁石を応用した小型1成分現像方法、(株)リコー 高分子/低分子複合型熱可逆記録材料の開発
1995 セイコーエプソン(株) Mach-Jet技術の開発、富士ゼロックス(株)ハイライトを重視した新規スクリーン技術“HIEST”、ミルカ(株)フックスキャリアにおける歪補正技術
1996 アルプス電気(株)高精細600dpi溶融熱転写印刷技術、(株)東芝、(株)テック 一成分非磁性現象を用いたクリーナレスプロセスの開発
1997 富士ゼロックス(株)高精度タネム・カラーレジストレーション技術、日立工機(株)マルチビーム斜め走査技術による超高速レーザープリンタ
1998 沖電気工業(株)1200 dpi 高発光効率 LED ヘッド、富士ゼロックス(株)高精度カラーマッチング技術(フレキシブルGCR、3D-ACCT)、山梨電子工業(株)有機感光体の光感度制御技術
1999 キヤノン(株)デジタルカラー用重合トナーの実用化、富士ゼロックス(株)Color Laser Wind 3310「カラー高画質化技術」、松下電器産業(株)消耗品をオールインワンカートリッジ化したカラーレーザープリンタ
2000 京セラミタ(株)電子写真OPC用高性能電子輸送材料の開発、富士ゼロックス(株)高画質フルカラープリンタ・複合機 DocuColor 1250/1255シリーズの開発
2001 沖デジタルイメージング(株)高速高密度1200dpiLEDプリントヘッド、富士ゼロックス(株)オンデマンドカラープリンティングシステムColorDocuTech60の開発
2002 富士ゼロックス(株)高画質と低環境負荷を両立する乳化凝集法チナー(EAトナー)の技術開発、(株)リコー 高速カラーレーザープリンタIPSiO Color 8000/8100シリーズの開発、キヤノン(株)注入帯電クリーナーレスシステム
2003 キヤノン(株)カラーIH(電磁誘導加熱)定着方式の開発、東芝テック(株)電磁誘導加熱による定着器の開発、京セラミタ(株)世界最小カラータンデムプリンタFS-5016Nの開発
2004 富士ゼロックス株式会社「面発光VCSELを用いた2400dpiレーザー露光装置の開発」、株式会社リコー「電気二重層キャパシタ補助電源による省エネ定着技術」
2005 富士ゼロックス株式会社「冷却剥離による高面質定着装置MACSの開発」、株式会社東芝「消せるトナー「e-blue™」の開発」
2006 パナソニックコミュニケーションズ株式会社「カラーIH定着器の加熱幅制御技術」、花王株式会社「新規粉砕法による高速高画質オイルレス対応ポリエステルトナー」
2007 京セラミタ株式会社「エコロジー対応A3カラータンデムMFP KM-C4035Eシリーズ機の開発」、株式会社アルバック・コーポレートセンター「独立分散金属ナノ粒子インクを用いたインクジェット印刷による導電膜形成」

- 2008 富士ゼロックス株式会社「自己走査型LEDを用いた1200dpiLEDカラー複合機の開発」
キヤノン株式会社「透明トナーによる電子写真画像表現多様化への挑戦 imagePRESS C1+」
- 2009 アルプス電気株式会社「1パスフルカラーダイレクトサーマル記録システム（ZINK）の実用化」
- 2010 富士ゼロックス（株）「新規EA-Ecoトナーの開発」、ブリヂストン（株）「電子粉流体を用いた高速応答型電子ペーパー「AeroBee」」
- 2011 キヤノン株式会社「ワンパスフォト印刷を実現したDreamLabo 5000の技術」、コニカミノルタビジネステクノロ
ジーズ株式会社「鮮やかな色再現でVividな価値を提供することに挑戦したハイクロマトナーの開発」、セイコーエ
プソン株式会社「中空粒子を用いた水性白色インク搭載のインクジェットプリンタ」
- 2012 株式会社リコー「リライタブルレザシステムの開発」、株式会社SIJテクノロジー「スーパーインクジェット技術
の開発と実用化」、富士ゼロックス株式会社「プロダクションプリンタColor1000Press用インライン画像センサの
開発」
- 2013 東芝テック株式会社「Loops（用紙リユースシステム）」、株式会社リコー「AC転写技術」、三菱製紙株式会社「プ
ロダクションインクジェットプリンター用コート紙「SWORD iJET」の開発」

技術研究賞

2013 平林 純



【2014年度選奨委員会委員リスト】

委員長 内藤裕義（大阪府立大学）

委員 半那純一学会長（国際交流委員長）、竹内達夫運営委員長、中山信行編集委員長、
面谷 信技術委員長、阿部隆夫コンファレンス委員長、夏原敏哉ICJ2014FALL実行委員長、
大橋豊史事業委員長、北岡義隆関西委員長、辰巳節次財務委員長、
長山智男広報委員長、服部好弘ICJ2014実行副委員長、酒井真理企画委員長